



こころの虹

OIKAWA HOSPITAL INFORMATION KOKORO no KAKEHASHI

- ホームページ URL <http://www15.onn.ne.jp/~oikawahp/>
- Eメールaddress oikawahp@oa.mbn.or.jp

編集・発行

医療法人 にゅうわ会

及川病院

〒810-0 14

福岡市中央区平尾2丁目21-16

TEL 092-522-5411

No. 16 2008年10月 発行

基本理念

及川病院のめざすこと、その役割と大切なこと

親切

私たちは親切な対応とわかりやすい説明を心がけ、患者様の身になって行動しています。

信頼

私たちは患者様の一日も早い快復、社会復帰を願い、信頼され、心の通い合う医療に努めています。

専門

私たちは乳癌の診断から治療、緩和ケアまでを担う専門病院として、女性の生涯にわたる心身の健康を総合的に守ります。

進歩

私たちは常に新しい医療・療養環境を学習し、分析・反省を繰り返し、より優れた医療の提供を目指し進歩し続けます。

今年も10月「乳がん月間（乳がん早期発見強化月間）」、ピンクリボン活動の季節となりました。私達もオリジナルの検診啓蒙リーフレットやグッズを作って3年目になります。今年も職員たちが街頭に出て、それらを配りながら検診の大切さを訴えました。その様子は新聞にも取り上げられ、ささやかですが専門病院としての役割を果たせているかなと思っています。

今年の新聞紙面を飾ったのは、街頭で乳房モデルを使って「乳がんのしこり」を体験している様子でした。その談話には「しこりに触ってみて初めて乳がんを意識しました」とあります。乳がんに限らず、どうしても病気は他人事と思ってしまう。「まさか私が・・・」というのは皆さん普通の思いなのです。それを常に意識しなさいというのは無理な話です。例えば、自己検診方法はあだこうだと言っても、やったことがない人には難しいと思えますし、しこりの触り方もそうです。乳がんに似たしこりに乳腺症のしこりがあります。乳がんのしこりがごつごつしているのに対して、線維腺腫のしこりはつるつるしており、まるでビー玉でも転がしているような感じです。こういうことも言葉で聞いてもピンときません。

でもこの日の体験者のように実際に触ってみればわかるし、自分で自分の体を守ろうという意識づけにもなるでしょう。私たちのような医療者でなくてもわかるんですよ、ということ伝えていくのも大切な啓蒙活動です。

当院では今後、検診をもっと身近に感じてもらえるような活動を行っていきたいと思います。



10月は「ピンクリボン月間です」

ピンクリボンとは乳がんの早期発見、早期治療への思いを込めた世界共通の乳がん撲滅のシンボルマークです。



乳腺専門病院である及川病院は今年もピンクリボン活動を展開しています。

10月は乳がん月間です。

乳がん検診はお済みですか？
ご家族やご友人はどうでしょう？
早期発見で“大切な人や自分自身”をしっかりと守りましょう！

※詳しくは当院受付へどうぞ

2008
PINK
RIBBON

Oikawa
Hospital

及川病院 検索





及川病院の取り組み



『オリジナルリーフレットとグッズを作って活動を広げよう』



オリジナルリーフレットは、自己検診方法や乳がんとはどういうものか、というどなたにも活用していただける内容のものを作成しました。

また職員がデザインしたオリジナルのピンクリボンマグネットも作成しました。

『院外でも啓蒙活動しよう』

10月9日薬院駅前とサニー平尾店前で乳がんの模型に触れていただいたり、グッズ配布をとおして乳がん早期発見啓蒙活動を行いました。



乳がん模型で説明中

新聞にも掲載されたのでご覧になられた方もおられると思います。

ボランティアで患者様のご家族も活動に参加してくださいました。



薬院駅前での活動



いざ出陣！



男性スタッフも頑張りました！

『手作りポスターを掲示して活動を広めよう』



自己検診や乳がんの基礎知識を書いたポスターを院内に掲示しました。ピンクをベースにした手作り感にあふれるポスターはいかがだったでしょうか。

来年度も乳がんの早期発見に向けて情報発信・活動してまいります。皆様から「こんなことをしてほしい」などのご意見がありましたら、どうぞお聞かせください。

早期発見で命もあっぱいも守りましょう

乳癌治療薬トラスツズマブ(商品名「ハーセプチン」)が 術後補助療法として保険適応になりました

これまでハーセプチンは再発乳がんの方にしか保険が適応されず、術後補助療法として使用する方は自費で行うしかありませんでしたが、今回ようやく「術後補助療法」として健康保険を利用して受けられることとなりました。

治療法としては3週間に1回の点滴治療を1年間行います。HER2タンパクを多く持つタイプの方で、手術後1～2年未満の方が対象です。

ご自分がハーセプチン術後補助療法の対象かどうかお知りになりたい患者様は、どうぞ診察前にお気軽にスタッフへ声をおかけください。診察時に医師より説明いたします。

保険適応になったとはいえハーセプチンは高額な薬です。

(3割負担の方で初回6～7万、2回目以降が4～5万円かかります。)
高額医療費補助のご相談にも応じますので、こちらもどうぞお気軽にスタッフへ声をおかけください。

*ハーセプチンとは、HER2タンパクというがん細胞が増殖するのに必要な手(受容体)を多く持つタイプの乳がんの方に適応できる治療薬です。栄養を摂って増えようとするがん細胞の手を封じ込め、がん細胞の増殖を抑える役割をします。

栄養科おすすめメニューその②～

今回ご紹介するのは患者さんや職員に大人気、今が旬の南瓜を使ったかぼちゃプリンです。

かぼちゃプリン

●材料 6人分

かぼちゃ・・・140g
牛乳・・・110cc
全卵・・・1個
卵黄・・・1個
グラニュー糖・・・40g
生クリーム・・・100cc

カラメル

グラニュー糖・・・50g
水・・・10cc

●作り方

- ①まずカラメルを作ります。カラメル用のグラニュー糖と水5ccを強火にかける。泡が小さくなり、チョコレート色になってきたら残りの水5ccを少しずつ入れる。これを型に流しておく。オーブンを200℃に温め始める。
- ②かぼちゃを適当な大きさに切って皮をおき、竹串がすっと通るまでゆでる。(電子レンジにかけてもOK)
- ③ボウルに全卵、卵黄、グラニュー糖、生クリームを入れ、泡立て器で混ぜ合わせる。
- ④ゆで上がったかぼちゃの水気をきって裏ごしし、牛乳を混ぜ合わせる。さらに③の卵の生地を混ぜ合わせる。こしながらカラメルの入った型に流しこむ。
- ⑤天板に湯をはり、型をのせて湯せんにする。オーブンで1時間ほど焼く。焼き上がったら粗熱を取り、冷蔵庫で冷やす。



第十四回 乳腺外来での診断の進め方

顧問

野村雍夫

このような乳癌をどのように発見、診断するべきでしょうか。女性が乳房に関して病院を訪れる理由を考えてみましょう。1) 異常はないが乳癌が心配、2) 違和感、3) 痛み、4) しこり（腫瘍）、5) 乳頭から血液、水様、乳汁様の分泌液がでる、などでしょう。1)～3) の場合は乳癌である可能性は非常に少ないですが、皆無でなく、乳癌の検診の目的も自覚症のない、このような時期に発見しようとするわけです。

一方、閉経前の女性は月経周期のホルモンの周期的変化により、乳腺も変化し、月経（生理）前に膨満（はり）、痛みや違和感が生じます。乳腺症の場合にはこのような変化が強くなります。このような周期的な乳腺の変化は女性自身が一番熟知しているので、このような変化以外の症状の出現が重要です。

痛みは急性乳腺炎でも起こります。産褥時の乳汁の排出が不十分のために乳汁がうっ滞しておこるうっ滞性乳腺炎や細菌が感染しておこる化膿性乳腺炎があります。皮膚の発赤、腫脹、熱感、疼痛の症状は炎症性乳癌でも起こりますので、注意が必要です。

4) の腫瘍にも乳癌だけでなく、種々の疾患があります。最も多いものは乳腺症と線維腺腫です。乳腺症は30代以上に多く、顆粒状、結節状などと表現されるような、多発性またはびまん性硬結ですが、単発性のこともあります。一般に境界不明瞭で、周囲の乳腺組織より堅い、不整形の硬結として触れることが多いのですが、嚢胞の場合には孤立性の堅い腫瘍として触れます。両側生のことが多いですが、一側生のことも少なくありません。種々の程度の疼痛を伴うことが多く、持続性のことが多いですが、月経前に増強し、月経とともに軽減する周期的であることが多いです。

このように、乳腺症は多彩な症状を示し、ときに乳癌に非常に類似した症状を呈します。これは乳腺症の組織像が、乳腺の増殖、萎縮、化生などよりなり、多彩で変化に富んでいるためです。乳腺症は一般的には乳癌に進展するリスクは正常乳腺と変わらず、萎縮性のものではむしろ少ないのですが、増殖性、異型性の乳腺症では乳癌のリスク（将来乳癌になる確率）が高いことが欧米だけでなく、私共の研究でも確認されていますので、注意が必要です。

線維腺腫は若年の10代後半から40歳代までに好発する良性の腫瘍です。単発性、ときに多発性の境界明瞭で表面平滑の可動性の腫瘍として触れます。癌が合併することや癌に進展することはまれです。その他、多くの比較的まれな疾患を含めて、乳がんであるかないか、乳がん進展する疾患であるか、追跡を要する疾患であるかを区別する必要があります。

5) 乳頭からの分泌、とくに一側性の血性異常分泌は乳管内の乳頭腫または乳癌の可能性ががあります。

このような訴えに対して、視診・触診、マンモグラフィ、超音波（エコー）検査、細胞診、生検などを行います。次回からは乳癌の診断に関して述べます。